

# 「縁・えにし」のよろこび

## ～春の仏教婦人会法座～



講師：中島 至心師

先般、3月30日（月）に、『春の仏教婦人会法座』をお勤めいたしました。ご講師に、中島至心師（糸島市・玉栄寺）をお迎えし、仏教婦人会綱領を通して、人間に生れた尊さや阿弥陀さまの願いを聞かせていただくことのよろこびを、お取り次ぎしていただきました。また、役員様・各地区役員様が、早朝よりお斎の準備をしてくださいました。ご参拝の皆さんが美味しくいただけるよう、心を込めて準備していただきました。

【仏教婦人会綱領】  
（浄土真宗本願寺派仏教婦人会連盟）  
 私たち仏教婦人は、真実を求めて生きぬかれた親鸞聖人のみあとをしい、人間に生まれた尊さにめざめ、深く如来の本願を聞きひらき、み法の母として念仏生活にいそしみませす。  
 一、ひたすら聞法につとめ、慈光に照らされた日々をおくりませす。  
 一、念仏にかわる家庭をきずき、仏の子どもを育てませす。  
 一、「世界はみな同朋」の教えにすがすがしい、み法の友の輪をひろげませす。



## ～永代経法要～



講師：正木 隆真師

先般、4月23日～25日の3日間、『永代経法要』をお勤めいたしました。ご講師には、3度目のご縁となる正木隆真師をお迎えいたしました。若手・布教使の第一線で活躍される先生で、ご参拝の皆様を魅了する、お取り次ぎを頂戴しました。『永代経法要』とは、永きに亘り伝わる「南無阿弥陀仏」のおこころ、「必ず救う、我にまかせよ」の阿弥陀さまのおこころが、今この私に至り届き、この出遇いをよろこばせていただき、これからも永きに亘って、み教えが伝わる願いのもと、お勤めさせていただき仏縁です。これからも、ともどもにお勤めさせていただきます。

## あみだれしび…今回は「永代経」とは

永代経は、詳しくは「永代読経」といい、永代にわたってお経を読み、そのお心をいただいて参りましょう、という法要です。

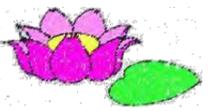
親鸞聖人は、著書の『教行信証』の終わりに、道綽禅師の『安楽集』の言葉を引いて、「前に生れるものは後のものを導き、後の生まれるものは前のものあとを尋ね、果てしなくつらなって途切れることのないように」とお念仏のいいわれを示されています。

以前、ご法話で「本堂の壁や柱には、お念仏を喜ばれた、懐かしい人たちの声が染み込んでいて、私たちにお念仏を抛り所に生き抜いてくれと、よび続けておられます。本堂に座り、共に念仏申し、お聴聞いたしましょう」と、聞きました。先祖のためにお参りすると思いがちですが、仏となった人が、先回りをして、私を本堂へと導いて下さっているのです。そして、「前のものあとを尋ね」ること、つまり私の本当の抛り所を、み教えに聞くことが大切です。長きにわたり、代々伝えられたお念仏の道を、私も歩み、また途切れることなく、お念仏を申し伝える、この尊いご縁をいただくのが、永代経なのです。

（『永代経』リーフレットより・本願寺仏教音楽・儀礼研究所 発行）

たすくるぞ たのめの母の 換び声の  
 今ぞ聞こえし 南無阿弥陀仏

（香樹院徳龍）



## 阿弥陀さまからのお手紙

### 『視点が変わること』

広島県・教専寺 福間 義朝

人生において視点が変わることで、辛いことが一瞬にして有難いことにもなります。仏法とは病気が治ったり、急にお金が入ったりしていいことが起こる教えではなく、仏法を聞くことにより視点が変わり、今までの愚痴や瞋りが感謝や懺悔に転ぜられてゆくことが仏法の働きです。

これはインターネットに載っていた話です。あるサラリーマンの人が投稿されておられました。ある日は彼は会社の仕事で出向先までバスに乗ったけど、バスは一杯だったそうです。ぎゅうぎゅうのバスに乗ったら、中はすごい熱気で最悪の状態だったそうです。しかもバスの奥の方で赤ちゃんがぎゃーぎゃー泣いています。彼は何でこんなバスに乗ったのか、自分の運の悪さを嘆いたそうです。すると赤ちゃんの泣き声がだんだんさらに大きくなりました。不快感も限界だと思ったら、赤ちゃんを抱いたお母さんが人の中を近づいて来ていることに気づきました。お母さんはバスを降りようとしてこちらに来ていたのです。彼はやれやれ良かったと思いましたが、そしてバス停でお母さんがバスを降りようとした時、運転手さんがお母さんに聞かれたそうです。「どこまで行きた

いんですか？」と。するとお母さんは「大学病院まで行きたいのだけど、この子が泣いてみんなに迷惑をかけるので、ここで降りて歩いて行こうと思います」と答えました。「赤ちゃんが病気になるですか？」と聞くと「熱があつてしんどいようなんです。風邪をひいたのだと思います」とお母さんは答えます。すると運転手さんはマイクを持ってみんなに言いました。「ここに風邪をひいて熱のある赤ちゃんとお母さんがいます。みんなの迷惑になるのでここで降りて歩こうとしています。大学病院まで停留所はあと三つです。みなさんがまんしていただけませんか」。

一瞬乗客はシーンとなったそうです。その後何人かの人が拍手をしました。そしてその拍手はバス全体に広がり大拍手になりました。お母さんは赤ちゃんの抱いたまま泣き始めました。そのサラリーマンの方も目頭が熱くなったそうです。そして思ったそうです。「自分は素晴らしいバスに乗れて良かった」と。その後赤ちゃんが泣いても人の熱気でムツとしても、むしろそれらが有難く感じたそうです。

このバスの運転手さんが言われたことが仏法です。バスに乗っている人は不快感でイライラしていたと思いますが、運転手さんの言葉で視点が変わりました。自分のイライラの思いが赤ちゃんの風邪へと向けられ、何とか赤ちゃんが大丈夫であるようにという思いに転ぜられました。みんなが他の人のことを案ずる思いはとても素晴らしいという雰囲気を作ってくれます。だからそのバスの中は最高の雰囲気になったのだと思います。

## ＜法要のご案内＞

### 秋のお彼岸会

9月16日（水）夜席  
 9月17日（木）昼席・夜席  
 9月18日（金）昼席  
 講師 二木 文生師（山口・光善寺）

### 親鸞聖人・報恩講（754回忌）

11月26日（木）夜席  
 11月27日（金）昼席・夜席  
 11月28日（土）昼席  
 講師 福間 義朝師（広島・教専寺）

※昼席：午後1時30分～  
 夜席：午後7時30分～  
 どうぞお参りください



家庭で職場で今とても辛い環境にあつても、視点が変わることによって相手に「有難う」と感謝することだって起こります。それがお仏壇に手を合わせることは、忙しい日々の流れから一瞬でも「おかげさま」と視点を変える時でもあります。 ※この法話を書かれた福間義朝師は、今度の報恩講（11月26～28日）のご講師です。 『赤光寺からの便り』より